

災害復興支援学生ボランティア活動へのご支援をお願いします

本日は『神戸大学阪神・淡路大震災30年シンポジウム』にお運びいただきありがとうございます。神戸大学は30年前のあの震災で、学生・教職員の47名もの尊い命を失いました。研究・教育をはじめとする大学の日常は崩壊し、医学部附属病院、附属学校なども大きな打撃を受けました。

その辛く厳しい経験が語り継がれ、また多くの方から受けた温かい励ましとご支援への感謝を胸に、現在も多くの学生が、自然災害の被災地での復興・復旧活動に、自発的に参加しています。

本学は、学生ボランティアが行う支援活動に対し、自己負担の軽減と支援活動の充実のために神戸大学基金からの助成を行っています。自然災害がなくなることはなく、罹災現場で経験する学生の支援活動は後輩へと引き継がれ、その蓄積は多くの被災者のサポートとなるでしょう。

このような活動は、いったん途切れてしまうと、支援の心がけやノウハウ、合理的なサポート方法などボランティア活動の大切な基軸が失われてしまいます。厳粛な被災経験を持つ本学は、学内のボランティア・グループの活動への継続的な助成を通じて、自然災害に迅速・適切に対処できる社会の実現に取り組んでいます。

この助成の財政源は、国からの運営費交付金や被災地自治体からの給付ではなく、皆様のご寄附による神戸大学基金のみです。ボランティア活動の今後は、ひとえに皆様のご理解とご支援にかかっています。ご賢察の上、温かいご篤志をいただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



学内には災害復興支援ボランティア学生団体が26あり、800人を超える学生が活動しています。2024年元日の能登半島地震では、被災住宅の片付けと被災者とのお話、9月水害後の泥土撤去といった活動を行いました。東日本大震災の被災地支援も、岩手県を中心に継続的に訪問し、被災地の大学と災害を語り継ぐ活動にも取り組み、新しいネットワークも生まれています。

ご寄附は、神戸大学基金のウェブサイトより承ります。ボランティア活動へのご支援は、申込フォーム記載の使途目的の中から、「基盤事業」をお選びください。

基金 HP



<https://www.office.kobe-u.ac.jp/kikin/>

神戸大学基金



神戸大学

